

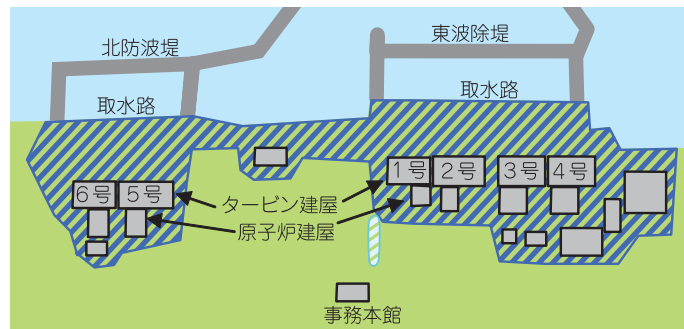
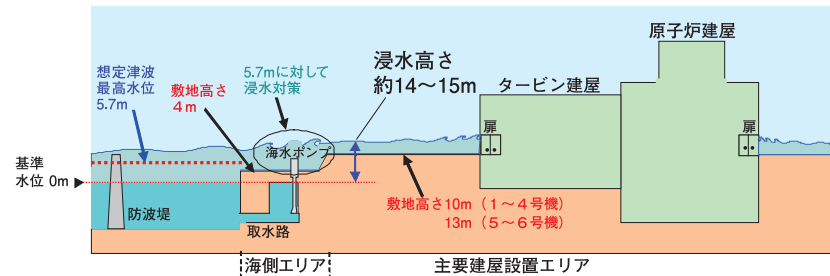
柏崎刈羽原子力発電所では津波への対策を進めています

福島第一原子力発電所における事故、および放射性物質の漏えいにより、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを心より深くお詫び申し上げます。

東北地方太平洋沖地震時の津波の調査結果

◆福島第一原子力発電所

海側エリアの全域と主要建屋設置エリアのほぼ全域において、基準水位から約14～15m（1～4号機で地表から約4～5m）浸水しました。



福島第一原子力発電所における津波の状況（概念図）

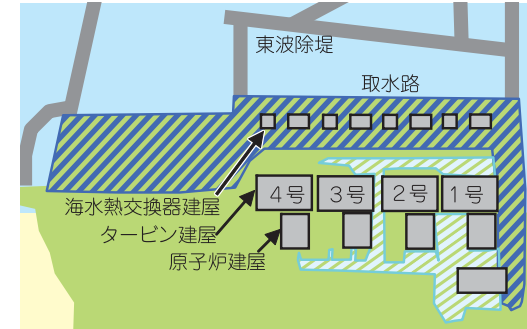
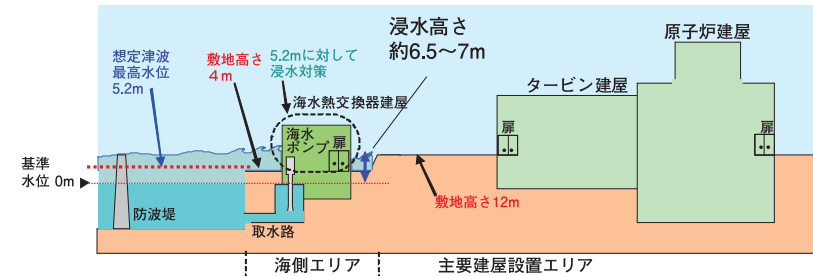
海 浸水した場所
遡上により浸水した場所

非常用ディーゼル発電機（1～5号機：2台、6号機：3台）は6号機の1台を除き使用不能。

冷却用の海水ポンプが浸水により全台使用不能。

◆福島第二原子力発電所

海側エリア全域が基準水位から約6.5～7m（地表から約2.5～3m）浸水しました。主要建屋設置エリアは1号機の建屋南面のみ基準水位から約14～15m（地表から約2～3m）浸水しました。その他2号機の建屋周辺と、3号機建屋南側のみが浸水しました。



福島第二原子力発電所における津波の状況（概念図）

海水熱交換器建屋は全号機にタービン建屋は1～3号機に原子炉建屋は1号機に浸水。

原子炉建屋地下の非常用ディーゼル発電機（1プラント各3台）は3号機の2台、4号機の1台を除き使用不能。

冷却用の海水ポンプが浸水により3号機の一系統を除き使用不能。

福島第一原子力発電所では、福島第二原子力発電所に比べより大きな浸水域、浸水高であったため津波の影響が大きくなりました。

柏崎刈羽原子力発電所の取り組み

◆柏崎刈羽原子力発電所でも、想定を超える津波による浸水で電源がなくなることや原子炉と使用済燃料プールが冷やせなくなった場合を想定して新たに電源車や消防車などを配備しました。

◆これらの資機材を使って4月11日に訓練を行い、ケーブルやホースに不足はないか、体制や手順が十分か確認しました。



消防車による代替注水



電源車による代替電源

今後、福島第一原子力発電所の事故状況の分析、評価を進め、柏崎刈羽原子力発電所の更なる安全対策を検討してまいります。